にじのいえ信愛荘10周年記念号

青梅のにじ

第21号
2020. 9

〈発行〉
日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会　須藤　繁

〒198-0052　東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283　FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467
加入者名：にじのいえ信愛荘

この上ない喜びに生きる

日本基督教団総会議長・越谷教会牧師　石橋　秀雄

「にじのいえ信愛荘」が復活の光に照らされて合併10周年を迎えましたことを感謝いたします。

福音伝道に全てを献げ尽くして働いた日本基督教団の伝道者にとって「にじのいえ信愛荘」は大きな支えです。

1999年1月、当時の信愛荘で行われた藤田亀士郎牧師の葬儀は忘れられません。

私は神学校を卒業してすぐに埼玉地区第三区の鴻巣教会に信徒伝道者として赴任しました。教団紛争の中で教師検定試験が行われなかったからです。

同じ第三区秩父教会の牧師であられた藤田牧師は、何かと心にかけてくださり、鴻巣教会で教師会があると、30分も早くお土産を持って来てくださり、励ましていただきました。その後秩父教会から菖蒲教会に赴任され、すべてを献げ尽くして伝道され、1995年に信愛荘に入荘されました。

藤田牧師にとって死の時は「この上ない喜びの時」であることが葬儀で示され感動しました。「イエス様にお会いするのだからモーニングを着る」と希望されていたのです。藤田牧師のモーニングを着たその時のお姿が心に焼き付いています。

私の鴻巣教会赴任の最初の1年は裁判に翻弄されました。土地の所有をめぐって元牧師が裁判を起こし、前牧師はその激しい裁判の途中で転任、何もわからない青二才の信徒伝道者の私が、裁判を受け継ぐことになります。その時、牧師の終わりを強く意識し伝道者の歩みを始めました。

現在の越谷教会に赴任して39年になりますが、その終わりの時をシッカリと見つめて教会に奉仕しています。

そして、その伝道者の人生の終わりの時がどのような時であるか、藤田先生が示してくださいました。復活信仰の確信に包まれて、復活信仰を宣べ伝えることに全てを献げ、隠退され、最愛の妻小枝子夫人と共に、この荘での礼拝と祈りが中心の生活をされ、その終わりの時、「この上ない喜びの時」を指示されました。

私たち日本基督教団の伝道者として召された者は、この先達の後ろ姿を見つめながら伝道者の歩みをして生きたいと願っています。

「にじのいえ信愛荘」の合併10周年に当たり、隠退伝道者夫妻を献身的にお世話くださる職員の皆様に感謝し祈りたいと思います。

運営委員会の尊いお働きに感謝し祈りたいと思います。

日本基督教団の教会が、感謝し、祈り、献金を献げたいと思います。ご協力ください。

イースター礼拝説教

キリストの復活

隠退教師　河原　嶺子

ヨハネによる福音書11・25～26

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」この言葉は兄弟ラザロが亡くなり、悲しみの中にあったマルタ、マリアの姉妹にイエス様が語られた言葉です。私たちは自分の身近に人の死を目の前にした時、初めて、否、改めて人とは死ぬ者なのだと、深い悲しみのうちに思い知らされます。マルタ、マリアがユダヤ人と一緒に泣いているのを見て「イエスは涙を流された。」(35)

「しかし、中には『盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか。』と言う者もいた。」(37)とあります。私たちも思います。「神はどうして人間を死なない者に創ることができなかったのでしょうか」と。しかし、すべての始まりを記した創世記には「主なる神は土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創2・7)ではどうして、いつから死ぬ者となったのでしょうか。主なる神は人をエデンの園に住まわせ、命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」(2・16～17)ところが、食べたその時から、人は「死ぬ者」となったのです。

Iコリント15・50には「肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。・・・この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき・・・『死は勝利にのみ込まれた。』」(Iコリント15・50～54)この言葉が実現するのです。

イエス様は、悲しみ、苦しみ悩み、命の危機に晒されている人々に、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」(ヨハネ11・25～26)と御声をかけてくださっています。(にじのいえ信愛荘　在荘)

〜10周年特集〜

よい10年でした

隠退教師　渡辺　正男

「にじのいえ信愛荘」合併10年のお祝いを申し上げます。

わたしは、その合併の年から荘の主日礼拝に招かれて、月一度説教を担当してきています。ちょうど10年になります。

隠退教師、そしてお連れ合いの方々と共にささげる礼拝には、同労者という思いからでしょう、不思議な安心感があります。けれど、みなさん聖書のプロのような方々ですから、説教を語るのは容易ではありません。

わたしたちは、人生の午後も遅い時間を歩んでいます。でも、齢を重ねるからこそ見えてくるものがありますね。老いるからこそ、以前にも増して主の慈しみを深く味わえるのではないか、と思っています。

その主の恵みを分かち合いたいという思いで、礼拝に出席します。拙い言葉を、みなさん深く聴きとってくださり、充実した礼拝を捧げることができました。よい10年でした。

説教のプリントをお配りしていたのですが、その一部が『老いて聖書に聴く』という小さな本になっています。

礼拝後の昼食は、楽しいひと時です。ついせっかちになると、「ゆっくり召し上がれ」と声をかけられ、おしゃべりをしながらいただいています。ここ数年は、近くのテーブルから笑い声も聞こえ、とても和やかな雰囲気です。

10年の間に、礼拝を共にした親しい方が何人も天に召されました。そのお一人おひとりを懐かしく想起します。

最近、イザヤ書52章12節、「あなたたちの先を進むのは主であり、しんがりを守るのもイスラエルの神」の御言葉を口ずさんでいます。主は「先を進む」と同時に、「しんがり」にもなっていてくださる。失敗や過ちの後始末をしながら、しんがりを守ってくださる―ホッとする御言葉であります。

「にじのいえ信愛荘」は、先を進む主に、そしてしんがりでもある主に守られて来たのですね。その10年の歩みに加えられたことを感謝しています。

神の指し示す道を

―10年の歩みを振り返って―

にじのいえ信愛荘
運営委員会委員長
須藤　繁

❶２０１０年6月、「にじのいえ」と「信愛荘」が一つとなり、青梅の地で新しい歩みを始めた時、荘員は21名、正職員は5名、運営委員は信徒の角谷多美子委員長外10名でした。10年経って、荘員と職員の数はほぼ変わりませんが、運営委員の数は、教団が改めて荘を教団のセンターとしたことにより、私を含めて15名に増えています（教団指名が4名増で5名、東京教区と西東京教区が各1名の増減で各3名、全国教会婦人会連合4名、監事は3名）。委員長は、2代目の鈴木功男氏、3代目の私も信徒です。これだけ見ると、10年経っても荘は運営委員が多少増えただけのようにも思えます。しかし、当時からの委員のお話しを聞いたり、合併に関する資料、運営委員会議事録などを読むと、荘員、職員、運営委員会、そして荘の運営の仕方も、10年経って現在の形に落ち着くまでには様々な紆余曲折があり、解決の難しい問題や試練も多くあったことが分かります。荘を取り巻く社会情勢が大きく変わったことも見逃せません。ですから、10年とはいえ、その歩みを書き記すことは簡単ではないのです。それでも、私がこうして荘の歴史を少しでも書き留めておきたいと思ったのは、主なる神が、それぞれの困難な歩みのなかで、私達に進むべき道を虹のように指し示してくださったからです。この業は、主の御旨に適うものだったのです。そのことを書き留めたい、そう思ったのです。

❷そこでまず荘員についてですが、荘は当初こそ21名の荘員が備えられましたが、その後、荘員が10数名まで落ち込んだことがありました。社会にも多くの有料老人ホームが現れました。そうすると、荘費が少ないと運営費が足りなくなるのではないかとか、荘はもはや必要が乏しくなったのではないかとの声が出てきました。そこで、荘は、運営委員会などで荘の在り方を随分と議論しました。他の有料老人ホームのように、入居一時金を貰って経営を改善すべきとの声もあり、老人ホームの経営者を呼んで勉強会も開きました。しかし、私達は、議論の末、地方にはまだ経済的に困難な牧師の方達がおられる、その方達のために、低廉な費用で入所できる施設は必要であるとの結論を得て、入居希望者を増やすために様々な知恵を出し合い、その結果、数年前から荘員は20名前後で落ち着くようになったのです。このことは荘の未来像の問題でもあります。

荘費については、当初荘への献金も多く、荘費の額は極めて低く設定されていました。しかし、次第に一般献金が減ってきたこともあって、合併3年目と今年度の2回にわたって値上げをさせていただきましたが、今回初めて基準荘費（A棟一人6万5000円、B棟一人7万円。部屋代・食費等を含む）と、それに見合う基準収入（月額9万円～12万円）を定め、荘員の収入に応じてこの荘費を増減する制度を作り、荘員の皆様のご賛同を得て実施しました。これにより、収入の多い方からは相応の荘費をお支払いいただく一方、入居時あるいは入居中に収入が減った方には荘費を減額させていただくことができるようになりました。これによって荘費の増収が可能となっただけではなく、低廉な費用でという荘の大切な理念を守ることができたと思っています。

また、荘員の入居資格としての「自立」の程度をどう考えるか、ここ10年の間ずっと問題になってきたことです。とりわけ最近は10年前に比べるとますます高齢の方の入居希望が増えてきて、希望時に既に軽い認知症になっている方も見られます。荘員の中でも要介護度が上がり、自立した生活が極めて難しくなって職員の負担も過大となり、介護中心の次の施設を探さなければならないケースも増えてきました。そのため、荘では、入、退荘の基準をさらに具体化したり、他の介護施設との連携を強めてきました。他方、抜本的解決をということで、荘が介護機能を持ち、先生方を最後までお世話できればという声が上がる

ようになりました。しかし、その計画を実現するには億単位のお金が必要になるばかりか、現状では荘のような小さな施設では介護従事者を集めることが不可能に近いと思われることもあって、残念ながらこの夢は、現在のところ、まだ夢のままです。ただ、近年、介護施設に移る荘員の方達に対して、ご希望があれば、お見舞い、お買い物、訪問聖餐、葬儀、遺産処分などのお世話をさせていただいています。この点を今後充実させて、他の施設へご転居後も、最後まで牧者にふさわしくありますよう、お手伝いをさせていただきたいと願っています。

❸この10年で、荘が一番悩んだのは職員の問題です。合併して起こった職員間の融和の問題は、異なる伝統と運営方法を持った2つの組織が1つになったのですから、生じて当たり前で、やがて人が代わり、時が流れるうちに解決へと向かいました。次は、合併前からの職員も含め、労働条件が問題となったケースが続きました。その問題の根底には、キリスト教施設によくある例として、契約条件が曖昧であったり、職員に奉仕の精神を求め過ぎたりする体質があったと思います。社会では労働環境が大きく変化し、様々な規制が厳しくなり、行政が乗り出してくるようになりました。就職する職員、退職する職員、そして在職中の職員に対しても、その労働条件をできるだけ明確にし、労働者としての種々の権利を認め、奉仕の精神を持ち出して物事を解決するようなことは慎まなければならなくなったのです。

このことは荘運営の全般にわたっても言えることでしょう。荘はそのことに少し鈍感だったように思います。ただ、主なる神は、これらの問題に対しても、時に応じて良き賜物を持った方を与えて解決の道を備え、祈りに応えて良き働き人を与えてくださいました。その結果、現在では大きな問題はすべて解決し、職員やパートの方もクリスチャンが殆どとなっています。幾つかの内規等も現状に合うよう変えました。問題が全部解決したわけではありませんが、これらを通じても、主なる神は荘を良き方向に導いてくださったのです。しかも、これまで荘はキリスト教施設であったがゆえに、職員のみならずパートタイマーやボランティアの方々まで、多くの信徒が必要な荘の務めに応じてくださいました。それによってどれだけ荘が助けられたか、その信仰に基づく愛の豊かさには感謝のほかありません。今後も荘は多くの信徒によって支えられるでしょう。しかし、これからはその働きに甘えるだけではなく、主の家にふさわしい社会的責任も果たしていかなければならないと思っています。

❹最後に運営委員会についてです。

3ヵ月に1回委員会を開催し、様々な問題を協議しています。委員会には色々な賜物を持った委員がおりますので、荘の多様な求めに応じて援助できるのが感謝なことです。特に現在運営委員会では、10年の歩みの中で経験してきたことを踏まえて、規則の改正に取り組んでいます。今までに、入退去への契約観念の導入、自立基準の明確化、荘長の役割などが議論の対象となってきました。ただ、委員会ではその都度緊急に解決すべき問題も多く、規則改正の議論はなかなか進みませんが、規則は荘運営の要となりますので、早めに成案を得たいと願っています。

❺パウロは、その手紙の最後に、お世話になった人々の名前を挙げて感謝の言葉を書き残しています。この稿を終えるにあたり、私もそのようにしたいのですが、この10年間荘のために祈り、支えてくださった方々は、恐らく数百人、いや数千人かもしれません。それで、残念ながらお一人おひとりのお名前を挙げることはできませんが、この10年間、荘のために様々にお尽くしいただいたすべての皆様に対し、心からの感謝を捧げ、主なる神の祝福が豊かに与えられますよう心から祈ります。そして、今後も、この荘が、にじのいえ信愛荘の名のとおり、神の国の似姿となり、神の指し示す道を歩み続けることができますよう、共に心から願い祈っていきたいと思います。（東海・伊豆高原教会員）

天に旅立った荘員たち

荘長　深山　祐

2015年1月より荘長として遣わされて約6年。

その間、天に凱旋された牧師、牧師夫人方のお名前を次に挙げさせていただきます。

【加藤實牧師】2014年のクリスマス当日に緊急入院され、初めて病床にてその温顔に接し、今も忘れ得ない深い慰めとなっている。翌年転院され、2015年3月1日主日早朝召天。小倉和三郎牧師による葬儀。

【藤田小枝子姉】召される前日、ご令息の藤田義哉牧師夫妻のご訪問の際には、お元気であった姉が翌日2015年3月31日朝急逝。荘にて山口隆康牧師による葬儀。

【伊藤卓江姉】2014年9月末退荘。2016年2月3日召天。2月5日荘にて葬儀（河辺伝道所増金潔牧師）。

【黒田愛子牧師】2016年6月8日召天。病院にて荘関係者と火葬前式。翌年8月17日、ご出身の米沢興譲教会「希望ヶ丘」での納骨式に荘関係者参列。

【石坂幸男牧師】2017年9月23日召天。青梅白寿苑から駆け付けた夫人と荘にて納棺式。25日荘にて葬儀。生涯仕えた水戸自由ヶ丘教会からも参列。

【吉田トシ牧師】2016年退荘、富津市望みの門、富士見の里に移られた。2018年9月20日96歳で召天。富津市にて南純牧師による葬儀。その後、母教会の函館千歳教会墓地での納骨式に荘関係者参列。

【土屋恵子牧師】荘の賛美を指導された師は退荘後、2年近く青梅の白寿苑に住まわれた。延命治療を受けず、2018年10月3日召天。88歳。荘にて葬儀。

【井柳福次郎牧師】入荘後3年余。2018年11月10日夜自室で倒れられ87歳で召天。14日の火葬前礼拝にて、愛唱讃美歌57番を歌いつつ荘関係者が見送った。

【嶺　尚牧師】澄子夫人と13年間在荘。長く主日礼拝係をご担当。2018年6月退荘し、足立区の施設に移られ、2019年10月19日召天。84歳。火葬前式（武田英夫牧師）。葬儀（船戸良隆牧師、於千葉船橋教会）。荘関係者参列。

合併10周年を迎えて

施設長　松村　誠一

皆様のお支えによって、無事合併10周年を迎えることができましたことを心から感謝申し上げます。

「にじのいえ信愛荘」は、教団のセンターの一つとして、永年伝道に尽くされた先生方やご夫人方が生活されています。

この荘には強力なサポーターがついています。東京教区、西東京教区、全国教会婦人会連合、隠退教師を支える運動、学校関係、全国の教会・伝道所、教職、信徒の皆様です。

今回のコロナ対策に対しても多くの方々よりマスクなどのご支援をいただき、本当に助かりました。こうした主にある温かいご支援のおかげで、この荘が守られてきたのだと思います。

私は2013年5月に、週1日のボランティアとして、荘に繋がりました。翌年4月より施設長を引き受けることとなり、この3月で満6年になりました。サンデークリスチャンの私でしたが、朝食前と主日の礼拝を守り、信仰の大先輩である荘員の方々と文字通り寝食を共にできることは、大きな恵みです。

さて、この荘は自立型の施設です。入荘の際には、自立基準の判定が必要となります。入荘ご希望の方は、是非早い段階でのご相談をお願いいたします。

現在8名のスタッフは、心をこめて一生懸命働いておりますが、終の棲家とはなっていないため、お世話が限界になると、専門的なサービスを受けられる施設へお移りいただくことになります。退荘後も、ご希望があれば、様々な面での関わり、お世話、お交わりを続けさせていただいております。

最後に、コロナ対策についてです。従来主日礼拝は4名の外部の隠退教師に説教をお願いし、第4主日のみ荘員が担当していました。しかし、この緊急事態に際し、外部からはお願いせず、何とか8名の説教担当者で礼拝を守っていくこととなりました。

3密を回避するため、広い多目的ホールで行っています。

信仰の炎は不滅です！

（神奈川・溝ノ口教会員）

「気づき」と「祈り」

隠退教師　宮本　恵

此処に「夕べになっても光がある」という表題の冊子があります。これには～「隠退教師を支える運動」三十年の歩み～という副題があり、日本基督教団「隠退教師を支える運動」推進委員会の編纂・２０１０年２月10日発行とあります。冒頭この運動の発端となった或る会が紹介されています。

―１９７３年秋晴れの日の午後、旭川豊岡教会の壮年会が開かれており、その席上、非常な苦境にある隠退教師のことが話題となり、この状況に何とか対応できないかと居合わせた７～８名の会員は心を合わせた。彼らの中の数名には共通の経験があった。―

―１９４７年１月、敗戦後間もない当時の旭川豊岡教会で、牧会の任にあった教師、教会復興のために懸命に尽くしておられたその方が、病に倒れ召されたのだ。未だ若年でもあり、どうすることもできなかった無念を、忘れることはなかった彼らであった。―

壮年会のこの日のメンバーは、先ず教会内に訴えて何らかの行動を、と願った。同席していた牧師は、これを「隠退教師を支える運動」と命名することを提案し、祈りをもって閉会、早速に教会内に若干の献金と謝恩日献金を守ることを勧めた。

その後、この運動は道北地区の各教会へと展開、１９７６年４月には第36回北海教区総会に第10号議案として提案され、満場一致で可決、次いで１９７８年11月第20回教団総会に第51号議案として上程され「隠退教師を支える運動の推進に関する件」は、此処でも満場一致の可決をみたのであった。

その提案内容骨子には、教団年金の基金・財源の充足を目的として「一〇〇円献金」運動を推進すること、謝恩日献金にも積極的に取り組むこと、各教会内にこの運動の担当者を置くこと、教団に推進委員会を設置することなどが挙げられていて、この運動の30年の歩みは教団総会での決議、常議委員会の下に、この活動を信徒運動として展開する推進委員会の発足をもって始まったとされている。

長々とこの運動に関する経過を記したのは、この運動の草創期、教団総会での議決に至るまでの５年間の活動を連携して進められた、隠れた方々の並ならぬ尽力に、感銘を覚えるからです。

以上の運動に先立つこと数年、１９６９年６月に、全国教会婦人会連合の第１回中央委員会が、天城山荘で開催されている。全国教会婦人会連合の発足である。そして間もなく１９７３年５月に、婦人献身者ホーム「にじのいえ」が発足。

２０１９年６月には、連合発足50周年を迎え、記念の集会が開催されており、現在は「聖書に導かれ、神の召しに応える―使徒言行録を学びつつ―」を主題として第26期の活動が始まっている。

「にじのいえ」発足に先立つこと14年、１９５９年12月に「信愛荘」は、当時の東京教区（現在の西東京教区も含む）の教会が主体となって展開された活動によって発足し、青梅の地で60年余経過している。

そして２０１０年４月、「にじのいえ信愛荘」は合併発足。まだ10歳、小学校４年生、まだまだこれからです。

先刻挙げました信徒運動、活動は、そこに寄せられた愛による「気づき」と、心を合わせて献げられた「祈り」の賜物です。多くの信仰の先輩の方々に倣って、主の導きと支えを祈りつつ生かされていきたく願います。

（にじのいえ信愛荘　在荘）

２０１９年11月27日　紅葉狩り

合併の頃、そして「新型コロナ禍」の今

花小金井教会員
横山　利江

２０１０年６月

「あっ、着いた」「みなさん、お疲れでしょう」にじのいえの方々を迎える為に信愛荘の玄関に集まった人々が口々につぶやきます。乗用車のドアが開き、次々に降りて来る7名の方々。はるばる館山から、横浜で一泊しながらの青梅への移動でした。

信愛荘、婦人会連合の出迎えの人々から拍手がおこり、声をかけ長旅の労をねぎらいます。「にじのいえ」と「信愛荘」の入荘者、職員が一つ屋根の下に勢揃いした一日目の光景です。

この年の9月にB棟献堂式が粛々と行われ、無事に一連の工事が終わったことを心から感謝し祝ったのでした。賛美の歌声はホールに響きわたりました。

２０１１年

早春の午後、静かな館内に突然の激震。ズシーンという地響きと共に天井がグラグラとゆれました。東日本大震災の瞬間です。幸い荘としての大きな被害もなく、計画停電も免れ日常生活はお守りの中にありましたが、刻々と伝えられる東北各地の未曾有の被災の様子はただ息をのむばかりでした。

地震の直後、婦人会連合の方々がガラス飛散防止のフィルムを、玄関や各所に貼ってくださり危機管理への関心が高まり非常食の備蓄、避難訓練等、緊張感をもって確認し合いました。この年の秋、東側の花壇に見事な皇帝ダリアの花が咲きました。

水色がかったうす紫の大輪の花は見上げる私達をやさしく見つめるかのように咲いていました。

丘陵の森に包まれて

私は合併直後2年間、現地スタッフの施設長として関わらせていただきました。

その後２０１５年秋に「主の御計らい」の道筋が与えられ入荘、5年目の春を迎えています。

長淵周辺をそぞろ歩けば、その立地の素晴らしさを再確認します。早春、森が目覚めてゆく時の色彩の変化は見事です。桜、三つ葉つつじ、新緑が綾なして思わず立ち止まります。そして小鳥たちの呼び交わす声のシャープなこと！　また、濃霧の早朝、遠景も霧に消える中、竹林の緑だけが浮かび上がって、墨絵の世界が広がります。

荘の花壇に立てば、不思議なことに、草、花々の声が聞こえるようです。「私たちは、枯れてゆくけれど、神様のみ言葉は永遠」と。

新型コロナ禍の今

２０２０年の年の初めに、このような人類の一大事を誰が予想したでしょうか。

3月頃より日毎の朝の礼拝の祈りの中に「新型コロナウイルスの感染拡大」の言葉がしばしば登場するようになりました。

全人類がこのウイルスと戦っている最中ですが、人類に下された試練の意味を考えざるを得ません。荘内でも、外出自粛、マスク必着、手洗い、消毒。食事、礼拝等、集う行為は全てホールでと細心の注意を払いつつ生活しています。幸い聖日礼拝は守ることができ、ありがたいことですが、多くの諸教会の困難を思い祈る毎日です。

合併から10年、荘に住む人々も変わりました。時の推移は確実に何かを変えてゆくようです。今、不穏な世相の中にあって「にじのいえ信愛荘」が守られてあることを深く感謝いたします。

私達は、いつ、何事が襲ってくるのか本当にわからないこの世を旅して居ります。たどたどしくも歩み続けることができる根拠は聖書の御言葉に外なりません。今朝の聖書日課はヨハネ14章6節「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない。」

（にじのいえ信愛荘　在荘）

2020年６月２日　荘の花壇を囲んで

私のひとこと

（五十音順）

荘員

老後に絵本と再会

池田　貞子

90歳を過ぎ、二度わらしになった私は世界中の名作絵本にはまっています。長山篤子夫人から拝借している次第ですが、牧師現役時代、買い揃えて置いた絵本を子育て中の若いお母さんから求められ全部あげました。40年後の今、感無量です。

伊藤　地塩

母方の祖母はニコライの伝道師、父は関西学院卒で、母と結婚後、ウエスレー神学校に留学、帰国後、牧師となり広尾教会などで牧会した。大陸伝道を志した兄は出征中消息不明に。末弟も牧師になり、妹は牧師夫人。

感謝の日々

稲垣　善子

私は六つの教会に仕えた。沖縄で石原邦枝牧師と親しくなり「隠退後は『にじのいえ』に行こうね」と約束をした。しかし石原牧師は病気で天国へ。私は4年前に、ここに入れていただいた。全国で伝道した仲間と楽しく過ごし、今も多くの人々に祈られ支えられて感謝の日々です。

柏井　雅子

2010年に、夫・宣夫と入荘させていただき在荘10年目になりました。緑豊かな自然の中で楽しく信仰の友の交わりの中で、慰めと励ましをいただいて過ごしています。夫は西東京ケアセンターでリハビリ中です。（7月23日退荘）

金井　和子

主の御恵みの内に合併後の荘の歩みも10年を迎えました。多くの方のお祈りとお支えをいただき、心から感謝いたしております。コロナウイルスに、皆様、気をつけてお過ごしくださいますように、お祈りいたしております。

入荘10年目

加藤　鈴

夫を天に送って5年が過ぎた。「最後は信愛荘があるからね」と香港、台湾、中国で後顧の憂いなく全て主にお委ねし、私共も成長させていただき、豊かな働きを、感謝を持って終えたのだった。念願叶って入荘が許され緑に包まれた安らぎの生活に感謝。

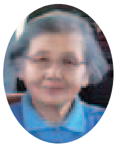
にじのいえ信愛荘に入居して

篠原　愛義

私は1965年、東京神学大学を卒業、大分県竹田教会伝道師となり妻・節子と結婚後、6教会で主のご用をさせていただきました。昨年、55年に亘る牧会生活を隠退「にじのいえ信愛荘」に二人で入居。感謝です。

5月を愛した亡き母のこと

篠原　節子



私の母（平田文（あや））は1907年（明治40年）5月21日、キリスト教家庭の三代目に誕生「5月は一番好きな月よ。母の日と誕生日と2回も祝ってもらえる」と喜んでおりました。召されたのも5月15日でした。

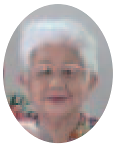
「にじのいえ」のこと

春原　鈴子

「にじのいえ」は、私が婦人会連合第一期中央委員の頃、アメリカからの献金を受け、婦人牧師と牧師夫人とのための施設を建てるという話がありました。1973年建設。家族で泊まりに行ったこともあります。

髙﨑　ワカ

信愛荘7年、合併して10年をこの青梅の里で過ごしました。小鳥のさえずりで目覚め、礼拝で始まる一日。担当が回って来る度に信徒に過ぎない私にとっては、きびしいものでした。しかし、この機会を与えられたことは感謝です。



長山　恒夫・篤子

にじのいえ信愛荘に来て1年が過ぎました。荘の中は、元気なお姉さん方ばかりです。今では、自分の歳を忘れて、それが当たり前に思えてきました。
外は、毎日青空です。もうすぐ来るだろう梅雨が楽しみです。

畠澤　廣子

入荘3年目、礼拝と祈祷会を重んじ、散歩と体操をし、奏楽の練習を朝夕少しずつ。今迄見えなかったものが見え、気付かなかったことに気付くようになった。イエスさまだったら、何と言うだろう。どんな行動をするのだろうと考え祈るこの頃です。

10周年記念がコロナ禍の年に

松本　明子

私は荘に来て3年になります。もしお世話になっていなかったら孤独死していたと思うと、荘を支えてくださる多くの教会と身近でお世話くださる荘の皆さんに心から感謝です。

吉川　幸子

入荘以来元気にしております。今、少し足が弱ってきていますが、美味しく食事をいただいています。
忘れっぽくなっていて困っています。
（6月23日退荘）

柳沼　政一・齊子

入荘させていただきまして4年。色とりどりの花のかおり、鶯の親子のたえまない会話、新しい命が豊かに育まれている自然の中で、神様のお恵みと、主にある方々のご愛をいただき、心から感謝いたしております。

スタッフ

青梅の青い空

田中麻里子

青梅の空は青く澄んで見えます。青い空を見上げると「智恵子は東京に空はないという、ほんとうの空を見たいという。」智恵子抄の空の詩を思います。安達太良山の空はもっと青いのでしょうか。ふと思う青い空です。

花の荘

内藤　美枝

十二単衣…なんてオシャレな名前なの！ハナミズキ…なんて可愛い名前！そして私のお部屋から元気でお茶目なヒメツルソバとおすまし紫蘭も見えます。素敵なお花に囲まれて、荘でのお仕事を楽しんでいます。

朝の忘れ物点検

岩間　智子

こちらで働き始めて1年が過ぎました。毎朝、仕事に出発する前に私は必ず忘れ物点検をします。その最後に、「信仰を持った?」と自らにこれは2、3回問います。主が共にいてくださるからこそできるお仕事です。感謝。

自分をはげます歌

高木　睦子

高齢者よ、
心をきたえておけ
弱くなった体が
たくましい心に辛くも
支えられる日がいつかは来る
その日のために
心をきたえておけ

ありがとう

渡辺みゆき

荘員の皆様は朗らかで人を思いやり支え合い、荘内はいつも笑い声が響いています。そんな荘員、スタッフに囲まれ楽しく仕事しています。感謝します。

2020年6月2日　在荘の皆様

信仰の絆

生活主任　三浦恵美子

『いかに幸いなことでしょう。あなたによって勇気を出し心に広い道を見ている人は。嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。』（詩編84・6～7a）の御言葉を胸に、自然豊かな青梅の地で働かせていただき7年になります。

荘員の方々に気持ち良く過ごしていただきたいと、スタッフ一同心を合わせ仕事に励んでいます。

荘員の方々にとって「にじのいえ信愛荘」は生活の場であり、その中で〝自由に安心して呼吸していけること〟は、とても大切なことと私は感じております。

荘の一日は礼拝から始まります。食堂で朝礼拝をし、食事。その後自由に時間を過ごす中で親しい方々と一緒に体操や散歩、趣味の園芸や読書等、お一人おひとりがご自身の時間を大切に過ごされています。

平均年齢が84歳とは思えない若々しいご様子に頭がさがります。この7年の間、神さまの御許に召された方、他の施設へ移られた方、今、共に生活をさせていただいている方々は、それぞれに豊かな個性をお持ちの方ばかりです。それは長年牧会の現場で過ごされてきた、来し方の在りようなのでありましょうし、信仰者としての祈りと感謝の証かもしれません。

10年前の合併当時のことを私は知りませんが、二つのものが一つになることは容易なことではありません。しかし、困難や違いの只中に、イエス様がお立ちくださり、合併に向けて集められた〝主にある希望への祈り〟が重ねられたことを信じます。

虹は希望と平和の架け橋でありましょう。「にじのいえ信愛荘」を支えてくださる多くの方々のお働きに感謝を申し上げます。日々のお守りに感謝しつつ、主の前にこの命をお返しする時、『主に栄光を帰すことができますように』と祈る者でありたいと願っています。

（東北・仙台五橋教会員）

非常事態宣言の中で

看護師　金井　弓子

千葉県館山にあった「にじのいえ」を離れ、先生方と共に、生活の場を青梅に移しましたのは、2010年6月でしたから、今年で10年を迎えます。現在施設在住の飛田悦子先生の他は、皆、国籍を天に移されました。

コロナ禍也藍より青し春の空

今は、新型コロナウイルス対策のため「緊急事態宣言」により、私は自宅待機となり、余裕のある贅沢な時を与えられ、花に水やり除草の日常です。コロナ禍により多くの社会活動が縮小されました。排気ガスは減り、空が実に澄んでいます。聖日にはインターネットでの視聴で自宅礼拝を守っています。

子供の頃、町外れに避（ひ）病院がありました。赤痢やチフスが流行りましたし、戦中戦後は結核が身近な病でした。今日迄、私たちは病原菌と共に生きてきました。「与えられた今日を過す終息に一日近づく」との思いで、希望を持って明日を迎えたいと思います。

「にじのいえ信愛荘」では、年間を通し、掃除を細部まで丁寧にしています。今回のウイルスに関係なく、いつも徹底した換気や消毒がなされています。たとえ感染症に罹患しても、感染が荘内で拡がった例はありません。

本当に感謝です。

今年は暖冬で、厚いコートに一度も袖を通さずに、コロナの春を迎えました。4月7日政府は「緊急事態宣言」を出し、その前に世界各地の自治体が「非常事態宣言」を発しています。地球温暖化による「気候非常事態宣言」です。日本においても温暖化がもたらす気象災害への危機感が強くなっています。温暖化の進行は、新たな感染症の発生や拡散に関係があるとも言われています。

「青梅のにじ」を手にする時にはコロナウイルスとも共存できる終息の域に近づいていることを、そして一日も早く有効なワクチンと治療薬が開発されますよう願っています。

（西東京・東久留米教会員）

チャリティコンサート報告

西村 佳子

チャリティコンサートは「信愛荘」時代から数えて、今年で19回目となります。

2020年1月11日（土）いつもの青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂にて、608名の来場者をお迎えし、新春の音の饗宴を存分に楽しませていただきました。

今回は、アンサンブル14（指揮者・辻 秀幸氏、バッハのカンタータ等を歌うアマチュアの合唱団）と、今井奈緒子氏のパイプオルガン演奏でした。

プログラムの主な曲目は、バッハの教会カンタータより、合唱曲コラール、そしてオルガン独奏曲、全部で15曲の素晴らしい演奏を聞かせてくださいました。辻氏も今井氏も、霊南坂教会員であることから、リハーサルは同教会礼拝堂で行われましたが、無観客のその空間は、まるで神の国であるかのような時が流れ、讃美が捧げられました。

当日も主に守られて宗教曲の数々を鑑賞、最後に、全員で讃美歌「みどりも深き若葉の里」をはじめ、礼拝堂に備えられた「讃美歌集」から数曲歌わせていただき、出演者と共に礼拝堂一杯の讃美の歌声を響かせ、皆心満たされ家路につきました。

この1ヶ月後に、コロナウイルスの禍が世界中を震撼させるとは、誰が予測できたでしょう。いつくしみ深き全能の主、どうか地に平和を賜わらんことを！

（募金小委員会）

2020年11月28日(土)予定のチャリティコンサートは、コロナウイルス感染の状況が見通せないため、中止となりました。

維持献金とクリスマス献金のお願い

「にじのいえ信愛荘」のため、皆様のご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、やむなくチャリティコンサートを中止せざるを得なくなり、全国の教会と皆様に一層のご支援をお願いいたします。また、次回の「青梅のにじ」も12月発行中止のため、早い時期のお願いとなりますが、クリスマス献金も心よりご協力をお願いする次第です。

○事務局には振替用紙と専用の献金袋（個人）を用意していますので、ご利用の上、教会でまとめてご送金ください。

○献金者の中で、ご召天、転居、転会、中止の場合や、献金額等ご不明の場合には、ご面倒でも、ご連絡（メールも可）くださると助かります。

振替口座番号
00120-3-358467
加入者 にじのいえ信愛荘
TEL 0428（22）2283
FAX 0428（22）2317
Eメール
nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

あとがき

「にじのいえ」と「信愛荘」が合併して今年で10年。今回もご執筆者のご協力によって、第21号「にじのいえ信愛荘10周年記念号」を全国の皆様にお届けできますこと、感謝の思いで一杯です。

今回の12頁カラー版の編集作業を開始し始めた頃、新型コロナウイルス感染が発生、瞬く間に世界中を震撼させてしまいました。編集作業は通信ネットワークを活用して何とかしのぎましたが、全国発送作業は通常とは違って、3密を避けての手作業となりました。

なお、今年度は今回の第21号発行のみとさせていただきます。

思えば12年前、「信愛荘」と「にじのいえ」との合併の話を初めて、耳にした時の驚きは忘れもしません。それが現実となり、無事合併が果たされ、青梅でのこれまでの歩みを想起するにつけ、合併は必然であったのだと実感させられます。主の御計画に深く感謝いたします。

（成松三千子）

編集委員会

長・成松三千子（柿ノ木坂教会）
石井 泰子（小松川教会）
岸 俊彦師（経堂北教会）
黒沢 咲子（九段教会）
阪口 和美（金沢八景教会）
鈴木 功男（目白教会）

印刷 シャローム印刷

荘日記

施設長　松村　誠一

●2019年11月
1日(金)第2回クリスマス委員会
4日(月)お茶会(20名)
9日(土)東支区壮年委員会来訪(6名)
14日(木)スタッフ会
15日(金)婦人会連合横浜地区来訪(2名)
第3回クリスマス委員会
20日(水)井上医院往診、故嶺尚師葬儀(於千歳船橋教会)
21日(木)運営委員会
23日(土)霊南坂教会・教会学校収穫感謝来訪(8名)
25日(月)誕生会・相談会
27日(水)紅葉狩り(14名)
28日(木)認知症講座
29日(金)B棟エアコン修理

●2019年12月
2日(月)お茶会(27名)
6日(金)第4回クリスマス委員会
12日(木)スタッフ会
16日(月)相談会・ピアノ調律
17日(火)東京聖書学校来訪(5名)
18日(水)庭園手入れ・井上医院往診
20日(金)青梅幼稚園来訪(4名)
23日(月)クリスマス礼拝・祝会(60名)
27日(金)全室電気系統チェック

●2020年1月
6日(月)お茶会(21名)
9日(木)スタッフ会
10日(金)第5回クリスマス委員会
11日(土)チャリティーコンサート
給食改善会議
17日(金)第1回イースター委員会
20日(月)消防設備点検
21日(火)井上医院往診
27日(月)誕生会・相談会
大崎敬子師送別会
31日(金)大崎敬子師退荘

●2020年2月
3日(月)お茶会(17名)
5日(水)風呂点検(レジオネラ菌)
7日(金)エレベーター点検
13日(木)スタッフ会
14日(金)財務小委員会
17日(月)第2回イースター委員会
20日(木)運営委員会
24日(月)誕生会・相談会
26日(水)井上医院(新型コロナウイルスの影響から往診中止)
28日(金)須藤繁運営委員長による荘費改定の説明会

●2020年3月
2日(月)お茶会中止
4日(水)漏電検査
12日(木)スタッフ会(持ち回り会)
14日(土)柏井宣夫師退荘、老健「西東京ケアセンター」入所
19日(木)荘費改定決定の件で須藤繁運営委員長来荘
21日(土)風呂定期メンテナンス
24日(火)食堂の席替(くじ引き)
25日(水)井上医院往診中止
30日(月)誕生会・相談会
主日礼拝説教担当者打合せ
コロナウイルス対策

●2020年4月
1日(水)荘費改定実施
6日(月)お茶会中止
12日(日)イースター礼拝・聖餐
14日(火)にじのいえ信愛荘イースター礼拝と祝会中止
16日(木)スタッフ会中止
19日(日)墓前礼拝中止
22日(水)井上医院往診中止
27日(月)誕生会・相談会

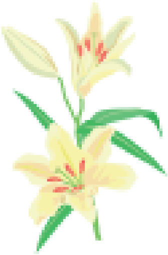
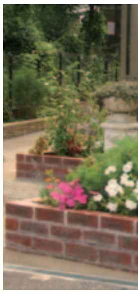
●2020年5月
4日(月)お茶会中止
8日(金)ホールカーテン・窓クリーニング
12日(火)会計監査延期
14日(木)スタッフ会中止
20日(水)井上医院往診中止
22日(金)運営委員会中止
青梅幼稚園花の日来訪
25日(月)相談会

●2020年6月
1日(月)お茶会中止
3日(水)地下タンク検査
10日(水)会計監査
11日(木)スタッフ会
17日(水)井上医院往診
22日(月)吉川幸子師送別会
23日(火)吉川幸子師退荘
29日(月)誕生会・相談会

○新型コロナウイルス対策として、多くの方からマスクなどのご支援をいただき篤く御礼申し上げます。

○3月29日以降の主日礼拝は、外部の隠退教師に代わり、荘員の方が説教の奉仕をご担当いただいています。

○3密対策として、主日礼拝と毎朝の礼拝及び祈祷会は時間を短縮し、ホールで行っております。

○フーズネットとの話し合いのもと、食事も6月21日までホールでいただいておりました。さらに、あらゆる事態を想定して「食」の提供を確約いただいています。

○スタッフの勤務体制も、政府の協力要請により、可能な限り公共交通機関を利用する人員の削減（自宅待機）を図って対応しています。